第２学年　英語科学習指導案

２年２組　男子　20 名　女子　20 名　計　40 名
指　導　者　　中川　拓也
【授　業】　９：00～９：50　会場　２年２組（３階）
【協議会】　10：05～11：15　会場　２年１組（３階）

１　単元名　Unit 6　How can we make a good presentation?（*NEW HORIZON English Course* 2）

２　単元について

（１）単元設定の趣旨

本単元では、エディ（Eddy）たちのグループがクラスメイトに行ったスポーツに関するアンケート調査の結果について、グラフや表を用いてプレゼンテーションを行う場面や、その発表に対して純（Jun）が書いたフィードバックを読み、より効果的な発表の仕方について考える場面が展開される。さらに単元全体を通して、生徒自身が身近なトピック（部活動、睡眠時間、好きな教科、休日など）についてアンケート調査を行い、集計したデータをグラフや表（棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ等）や表にまとめ、比較表現を用いながら調査結果を発表・共有する活動（Unit Activity）へと発展していく。身近な生活習慣や関心事をアンケートデータ（事実）として可視化し、それを英語で比較・分析する活動は、生徒にとって自分たちやクラスメイトの日常を客観的に振り返り、新たな傾向に気付いたり発見したりする機会となると考える。アンケート調査結果のグラフを読み取り、クラスの傾向や事実について比較表現を用いながら、自分の気付きや考えについて教師や仲間とやり取り（oral interaction）を行う。やり取りを通して互いのデータ解釈や考えを知ることで、調査結果に対する理解を深め、自身の発表に向けた思考を広げることができると考える。

学習指導要領においては、話すこと［やり取り］ア「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」や話すこと［やり取り］イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」等が目標として設定されている。また、学習指導要領解説には「やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない」とある。これらの目標に到達するためには、「相手の発話に応じ」て、「対話を継続・発展」させていく力の育成が必要である。さらに、鈴木（2024）は、「やり取りは認知的アプローチ（学習者個人の頭の中で起こる言語習得プロセスを促す）と社会文化的アプローチ（学習者同士が意味を共同で構築しながら学ぶプロセスを促す）の観点から第二言語習得に重要だ」と述べており、やり取りの中で、自然に英語を使用することを通して、言語習得が促進されることが期待される。

本単元の言語材料としては、「比較表現（比較級・最上級：-er / -est、more / most、原級を用いた比較：as ... as）」を扱っている（例：“A volleyball is smaller than a basketball.” “Basketball is the most popular sport in our class.” “Soccer is as popular as tennis.” など）。また、“According to our results, ...”（調査結果によると）や “Please look at these graphs.”（これらのグラフを見てください）といった発表・報告に関する機能的表現も含まれている。比較表現はものの大きさを比べたりデータを整理して事実を説明したりする場面で不可欠な表現であり、やり取りの際に、分析した事実や意見を伝え合う場面で適切に使用できるようにしたい。

本時では、音読を通して、相手にインタビューしたり、比較級を用いて自分の気持ちを交えて考えを伝えたりする表現に触れさせ、具体的な場面を設定して役割を演じること（以下、ロールプレイ）を通じてその定着を図る。

（２）生徒の実態

生徒はこれまでの授業で、様々な目的・場面・状況下で既習事項を活用し、やり取りを行ってきた。しかし、多様な場面や状況下において即興でやり取りをすることにおいては、正しい文法を使えなかったり語彙が不足していたりすることから多くの生徒が苦手意識を抱えている。

本単元では、相手の好きなもの等の身近な話題について尋ねたり、比較級を使って自分の考えを伝えたりするやり取りを通して、インタビューに必要な表現力の向上を図らせたい。

特に本時では、教科書の登場人物のやり取りのモデルを音読を通して定着させることで、使用する表現面における不安を取り除き、その後の生徒同士のやり取りに自信をもって取り組ませたい。

（３）本単元の指導の構え

・目的に応じた音読指導の工夫

本単元では教科書本文の内容理解後、英語特有の発音や抑揚に注意させて音読させたり、本文の表現を内在化させたりするための音読活動を行う。特に本時では、シャドーイングやリード・アンド・ルックアップ等の手法を用いて、ロールプレイで使用する表現の内在化を目指す。音読をする際は、それぞれの音読の手法がどのような目的で行われるかを明らかにして生徒に説明する。

・即興的なやり取りに向けたロールプレイの活用

即興的なやり取りに向けた段階的な活動として、ロールプレイを行う。ペアでＡとＢのそれぞれの役割を交互に演じさせ、既習事項を必然的に使わせることで、対象の言語材料の習得をねらう。また、本時において、生徒は２回ロールプレイを行う。１回目は、具体的にどのような表現を使えばよいかは示さず、やり取りの場面や状況のみを示す。その後、ロールプレイをする上で、生徒が言いたかったことが教科書で既習の表現であることを教師が明示し、教科書の音読で対象の表現の定着を図る。音読を通してやり取りに必要な表現を十分に定着させた後、２回目のロールプレイを行う。

３　研究主題・副題との関連

英語科における自立した学習者像は、「主体的にコミュニケーションを取ろうとする」、「目的・場面・状況に応じた既習の知識や技能を活用できる」、「学習状況に応じた個人課題の設定及び多角的な視点によって学習を修正することができる」学習者である。本単元では、ロールプレイを行う際、音読を通して身に付けた表現の中からどの表現を使用するかを自分で考え、状況に合わせて使用する表現を選択したり修正したりする生徒を「自立した学習者」とした。

本単元では「クラスメイトの好きなもの等の身近な話題について調査を行い、データを比べて発表することができる」という目標を達成するため、相手の好みについてインタビューし、そこで収集したデータを基に資料を作成をし、調査結果について英語で発表する。

本時では、英語で相手の好きな物等についてどのように尋ねるかや、どのように英語で回答するかを考えさせ、教科書本文の中から目的に応じて使うべき表現を選択させる。

４　単元の目標

〇相手の好きなもの等について尋ねる表現や、他のものと比べてよさを伝える表現を理解し、それらを用いて質問したり、自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることができる。（知識及び技能）

〇相手の好きなもの等の身近な話題について調査を行い、データを比べて発表することができる。（思考力・判断力・表現力等）

〇相手の好きなものに応じて聞く内容を修正したり、自分が好きなもののよさを伝えるときにどのような表現を使えばよいか吟味し、表現しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

5　全体計画（全６時間）

第１次　記事を読み、読んだ内容についてやり取りする。　……１時間
第２次　対話文を読み、相手にインタビューしたり、質問されたことについて答えたりする。　……２時間（本時２／２）
第３次　発表原稿を読み、読んだ内容についてやり取りする。　……２時間
第４次　モデル文を参考に、相手の好きなもの等について調査を行い、データを比べて発表する。　……１時間

6　本時の学習（本時３／６時間）

（１）指導目標

相手の好きなもの等、身近な話題についてインタビューしたり、比較級を使って自分の考えを伝えたりすることができるようにする。

（２）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1　あいさつをする。　全体	
2　英語で歌を歌う。　全体	
3　新出単語を復習する。　ペア	・単語リストを用いて、新出単語の意味や発音を確認する。
4　前時の学習内容を確認する。　全体 （例１） T: Take a look at the TV. Eddy and Anna are talking now. Eddy is asking Anna a question. What is he asking about? Ss: He is asking about Anna's favorite sport. T: What sport does she like? Ss: She likes curling. T: That's right. He is asking about her favorite sport for a survey. As Eddy did, you're going to do some research about your classmates' favorite things. Today, you're going to practice how to do research in English through role-play.	・前時に教科書の登場人物であるエディがクラスメートのアナに好きなスポーツについてインタビューしていることをやり取りを通して確認し、本時の生徒の活動につなげる。
相手の好きなものについて調査し、比べる表現を使って自分の考えを伝えよう。	

4　A と B の役に分かれ、ペアでロールプレイをする。 ペア A スポーツ、教科、食べ物の三つのトピックから一つ選び、B に好みとそれが好きな理由を調査しなさい。 B あなたは英語の授業で A にあなたの好きなスポーツ、教科、食べ物のいずれかについてインタビューされます。A の質問に英語で答えなさい。答える際、他のものと比べる表現を使い、自分の好きなものに対する思いを伝えなさい。	・ A と B のそれぞれの役割について、使うべき言語材料等は事前に説明せず、即興でやり取りさせる。
5　ペアで言いたかったが言えなかった内容について確認する。 ペア （例２） S1:「どのスポーツよりもおもしろい」ってどう言えばいいのかな。 S2:more を使えばいいと思うけど、わからない。	・前時に学習した内容を使えば表現できることに気付かせる。
6　ペアで教科書のどの表現を使えば言いたいことが伝わったかを検討する。 ペア	・生徒の意見から、今回のロールプレイには教科書本文中の表現の使用が必要だと気付かせる。
7　汎用性の高い表現を全体でシェアする。 全体 【使用が予想される表現例】 A ・I’d like to get your answers for a survey. ・What is your favorite sport/ subject / food? ・Why do you like it? B ・Soccer is more interesting than other sports. ・Tennis is the most interesting sport of all.	

8　音読を通して、ロールプレイに必要な表現を身に付ける。	・音読の手法に応じて、目的を明示した後に音読させる。
9　A と B の役に分かれ、横ペアでロールプレイをする。 ペア （例３） S1: I'd like to get your answers for a survey. Do you like sports? S2: Yes, I do. S1: OK.　What sport do you like? S2: I like soccer. S1: Why do you like it? S2: I'm on the soccer team. It's more interesting than other sports. S1: OK.　Thank you.	・A と B のそれぞれの役割を確認させ、使用すべき言語材料を想起させる。 ・ロールプレイ中は机間指導をし、言いたいことが表現できずに戸惑っている生徒がいる場合は、個別に支援を行う。
10　代表ペアが発表する。 全体 （例４） S1: I'd like to get your answers for a survey. What subject do you like? S2: I like English. S1: OK.　Why do you like it? S2: Because I want to go to some foreign countries in the future. Also, speaking English is a lot of fun! English is more interesting than other subjects. S1: OK.　Thank you.	調査する目的に応じて、相手の好きなものについてインタビューしたり、自分の好きなものについて比較級を用いて考えを伝えたりしている。（思・判・表）【観察】 ・指名されたペアが発表し、その内容から、教師が全体へ質問したり、個別にコメントを求めたりして話題を広げる。 ・発表した生徒から出てきた表現で他の生徒が理解できないものがある場合や発表者が何と英語で言えばよいか分からないものがある場合は、全体で考え、共有する。
11　次時の学習内容を確認する。 全体	
12　あいさつをする。 全体	

7　授業観察の視点

- ロールプレイを通してやり取りさせることは、音読で身に付けた表現の定着に有効であったか。
- １回目のロールプレイ後に、言いたかった表現をペアや全体で確認することは、２回目のロールプレイにおける生徒の発話の修正に有効であったか。

8　参考資料

・鈴木祐一(2024).「あたらしい第二言語習得論」研究社